

令和2年 **1 2**月の大阪森林便り

目次

- (1)  国産木材活用 中高層ビルも 耐火性向上、軽さも強み
- (2)  輸入合板、2年ぶり上昇 流通価格 東南アジアで供給停滞
- (3)  ヒノキ丸太価格 2.9%高 10月全国平均 主産地、出材が減少
- (4)  鉄鋼や木材 市況底打ち 在庫整理進み需給締まる

今月の木の話 樹木の天然記念物

- (1)  **国産木材活用 中高層ビルも**



耐火性向上、軽さも強み 自給率底上げ、建築向けがけん引

*国の利用促進策で公共建築物を中心に木造化が進んだほか、オフィスビルなど民間の中高層の建物にも木製の構造材が使われ始めました。

*国産材の割合を示す木材自給率は2019年に37.8%と、2018年比で1.2ポイント上昇。上昇は9年連続。

*このうち建築用途が多い製材用材で見ると、自給率は51.0%。2018年比で2.1ポイント上昇。

*2018年度に着工した公共建築物の木造率は13.1%と、2010年比で5ポイント近く上がりました。

*三井不動産と竹中工務店は、東京都内で2023年に17階建て木造ビルの着工を計画。

*強度を高めた厚板のCLT（直交集成板）を壁や床に使った建物の竣工数は、2018年までに300件。2年で200件増。

*課題はコスト。中高層の建物の場合、木造は鉄骨造などに比べ一般的に10~15%割高。

*CLTの製材工場は全国に8カ所しかありません。

*木質構造材は重さがコンクリートの2割程度と軽く、工期が短いなど利点も多くあります。

(2020年11月7日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(2)  **輸入合板、2年ぶり上昇 流通価格**

東南アジアで供給停滞 品薄感、相場押し上げ

- * 輸入合板の流通価格が2年1か月ぶりに上昇。
- * 型枠用合板は輸入品が9割を占めます。10月に比べ2%上がりました。
- * インドネシアやマレーシアの合板メーカーによる値上げ。
10月契約の対日価格は、前月比4~6%高。
原料高が背景に。例年より丸太が品薄になるとともに価格が上がりました。
- * 9月の輸入量は、前年同月比28%減。
- * マレーシアやインドネシアでは、工場の稼働率を4割近く下げるなど大幅に減産。
- * 9月の新設住宅着工戸数は70,186戸と、15か月続けて前年同月比で減少。
- * 輸入合板の需要は、2021年1~3月が今年1~3月に比べて9.4%減の見通し。

(2020年11月12日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3)  **ヒノキ丸太価格2.9%高 10月全国平均**

主産地、出材が減少

- * 桧丸太の価格が上昇。10月中旬時点の全国平均価格は、9月中旬に比べ2.9%高。
- * 主産地の九州地方で出材が減りました。
- * 丸太価格は7月まで例年以上に値下がりが目立ちました。
- * 8月以降は台風による山道被害もあって九州地方で出材量が減少、価格は上昇に転じました。
- * 杉丸太も3.0%上がりました。

(2020年11月17日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(4)  **鉄鋼や木材 市況底打ち 在庫整理進み需給締まる**

コロナで国内需要不振、減産徹底

*新型コロナウイルス禍に伴う需要減で下落してきた鉄鋼や木材などの国内市況が下げ止まりました。

*需要減と原料高で収益が悪化した素材メーカーが減産を徹底。一部で欠品も出始めました。

*国産合板の値下がりが止まりました。

*住宅不振で合板メーカーは今春から減産を強化。

9月の生産量は約23万m³と、昨年10月のピークより2割少なくなっています。

*住宅着工が9月まで15か月連続で前年同月を割り込む中でも、9月末のメーカー在庫は約13万m³と8か月ぶりに前年同月を下回りました。

(2020年11月21日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



今月の木の話



樹木の天然記念物

*国の天然記念物指定基準：動物植物及び地質鉱物のうち、学術上貴重で、我が国の自然を記念するもの。

勝手に人手を入れることは禁ぜられ、必要な場合、現状変更を願い出て許可を受けなければいけません。

国指定の樹木		
1位	スギ	49件
2位	サクラ	32件
3位	クス	28件
4位	イチョウ	27件
5位	ケヤキ	20件



※2008年頃現在

*大阪府内から選出された樹々

野間の大ケヤキ ・ 薫蓋のクス ・ 妙国寺のソテツ ・ 和泉葛城山のブナ林

(2008年発行 (社)大阪府木材連合会・大阪木材仲買協同組合発行「天然記念物 巨樹・古木」より抜粋・引用)